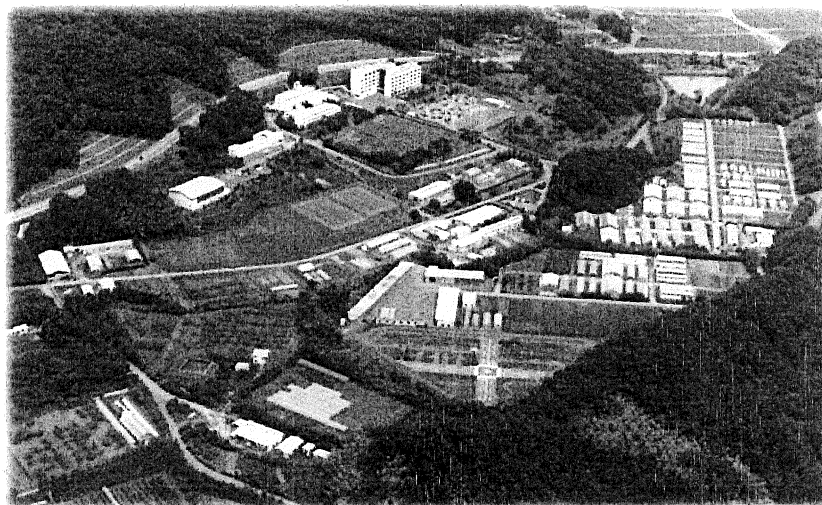


令和3年度宮城県試験研究機関評価委員会
第2回農業関係試験研究機関評価部会

機 関 評 価 資 料



令和3年12月9日(木)

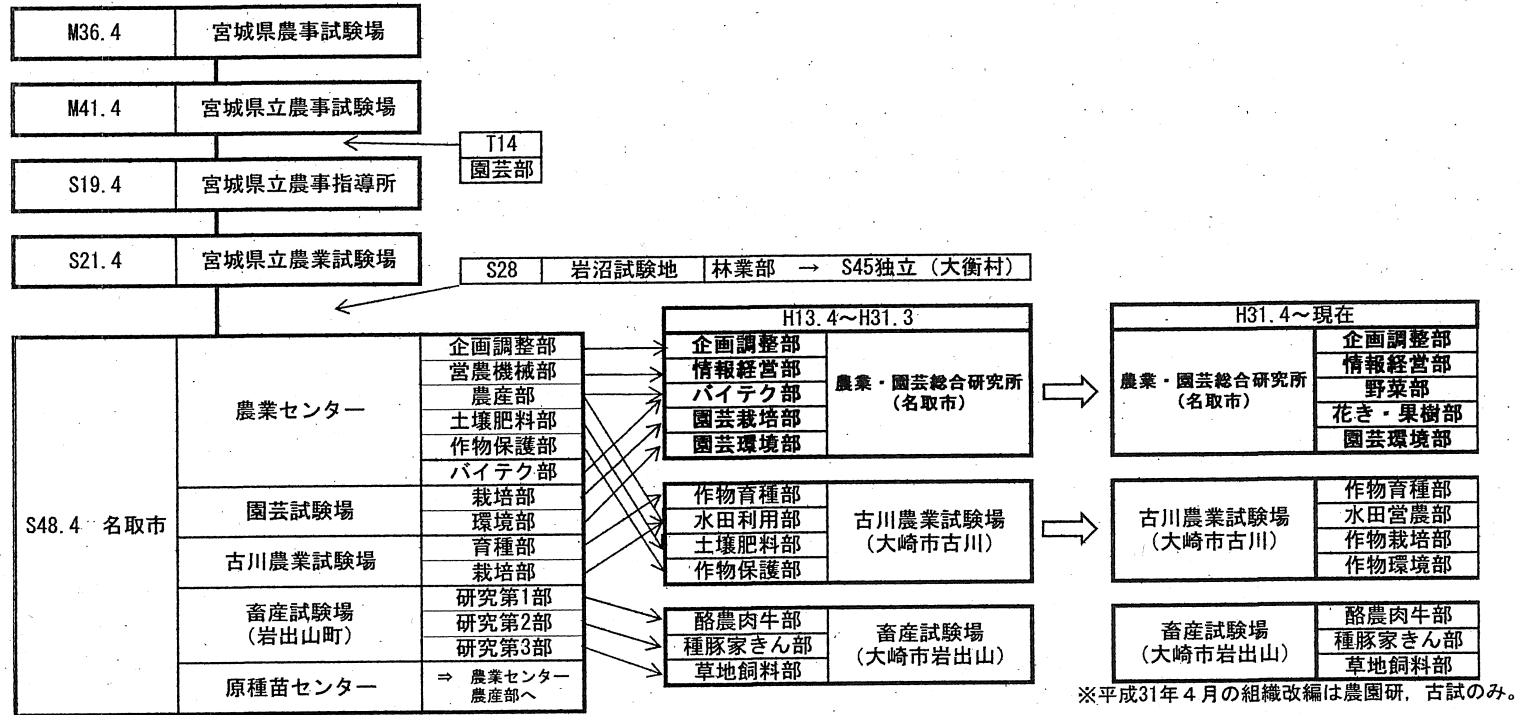
宮城県農業・園芸総合研究所

【 説 明 資 料 目 次 】

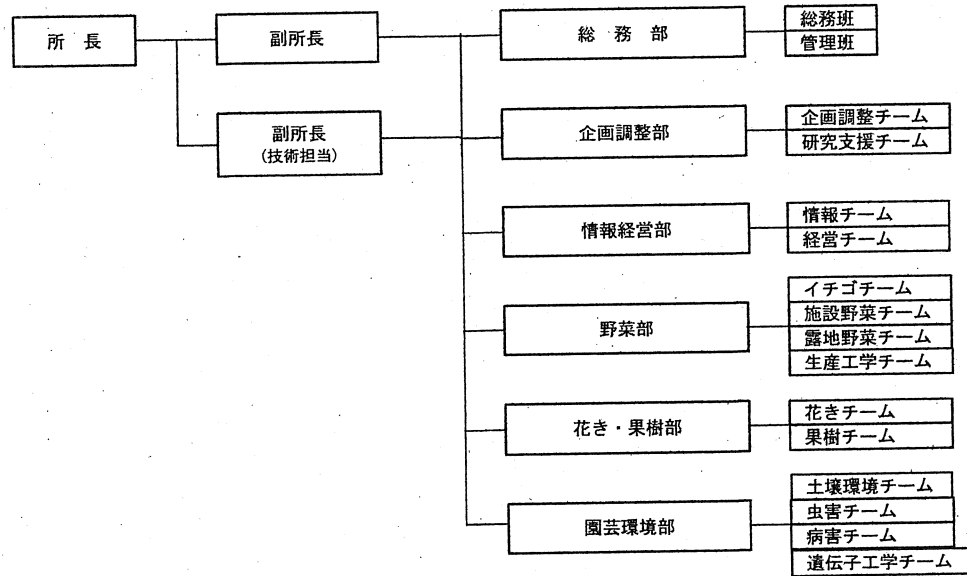
I	組織の沿革及び概要	
1	沿革	1
2	組織	2
3	職員数	2
II	研究機関の運営方針・重点分野	
1	第8次農業試験研究推進構想の検証	3
2	第9次農業試験研究推進構想	4
3	令和2年度農業関係試験研究課題	7
III	研究開発・技術支援等体制	
1	研究人員	13
2	研究予算額と研究課題数	18
3	成績検討会・設計検討会等	19
IV	研究者の確保・育成	
1	宮城県農業関係試験研究職員人材育成方針等の策定	22
2	研究職員の研修状況	22
3	表彰・学位	24
V	研究施設・設備等、研究環境の整備	
1	施設・設備の概要	27
2	重要物品等	28
VI	共同研究等産学官連携による研究内容の充実 (効率的な研究を推進する観点からの効果的な役割分担)	
1	受託研究	34
2	農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」	35
3	共同研究等	36
4	プラットフォームへの参画状況	36
VII	研究成果（成果普及関係業務を含む）の状況	
1	主要研究成果	37
2	知的財産	54
3	成果の公開	56
VIII	技術支援関係業務等の状況	
1	技術指導・相談の実績	59
2	種苗事業の概要と生産等の実績	69
IX	研究マネジメント	
1	農業関係試験研究機関の連絡調整会議実施状況	70
2	所内各種委員会	76
3	試験研究要望課題	77
4	業務評価	81

I 組織の沿革及び概要

1 沿革



2 組織（令和2年度）



3 職員数

区分 年度	所長 副所長		総務部			企画調整部			情報経営部			野菜部			花き・果樹部			園芸環境部			バイオテクノロジー開発部			園芸栽培部			合 計			
	事務	技術	事務	技術	現業	事務	技術	現業	事務	技術	現業	事務	技術	現業	事務	技術	現業	事務	技術	現業	事務	技術	現業	事務	技術	現業	事務	技術	現業	計
R 2	1	2	8	0	4	0	6	0	0	5	0	0	12	3	0	7	2	0	13	3	-	-	-	-	-	-	9	45	12	66
R 元	1	2	7	0	4	0	6	0	0	5	0	0	11	3	0	8	3	0	13	3	-	-	-	-	-	8	45	13	66	
H30	1	2	8	0	4	0	5	0	0	7	0	-	-	-	-	-	-	0	10	2	0	9	2	0	13	5	9	46	13	68

II 研究機関の運営方針・重点分野

農業関係試験研究機関（農業・園芸総合研究所，古川農業試験場，畜産試験場）では，みやぎ食と農の県民条例基本計画（以下，「基本計画」と言う。）を基に，本県農業における試験研究の基本方針等を定めた農業試験研究推進構想（以下，「推進構想」と言う）を策定し，試験研究に取り組んでいる。令和2年度までは，「第8次農業試験研究推進構想（期間：平成28～32年度）」（平成28年3月），令和3年度からは「第9次農業試験研究推進構想（期間；令和3～12年度）」（令和3年3月）を策定し，農業技術の高度化に取り組んだ。

1 第8次農業試験研究推進構想（平成28～令和2年度）の検証

第8次推進構想においては，農畜産物の生産性・品質の向上，担い手の育成，農業・農村の持続的発展等を目指すとともに，震災後は，被災からの早期復興に向けた取り組みに力を注ぎ，農業の復旧・再生を支援するため，7つの主要目標を設定した。

平成28年度から令和2年度までに，農業関係試験研究機関で実施された研究課題数は延べ226課題で，農業・園芸総合研究所では113課題に取り組んだ（表1）。

農業関係の試験研究成果を生産現場に迅速に伝達し，普及させることを目的としている「普及に移す技術」の開発件数は，平成28年度から令和2年度の5か年で58件と，「第2期基本計画」において示した推進指標（10件／年×5年）を達成した（表2）。

表1 主要目標別の平成28年度から令和2年度に実施された個別研究課題数

主要目標	個別研究課題数	農園研	古試	畜試
I 農業の東日本大震災からの再生と発展に向けた復興支援	30	18	11	2
II 食材王国みやぎを支える農畜産物の創出	86	40	30	16
III 環境に配慮した農業技術の確立	28	17	15	1
IV 環境変動に対応する技術の確立	11	3	8	0
V 効率的な農地利用のための技術の確立	15	2	8	8
VI 省力・低コスト軽労化技術の確立	18	15	4	0
VII 先進技術を活用した農業技術の確立	38	18	9	11
合計（延べ※1）	226	113	85	38

※1 複数の主要目標にぶら下がる個別研究課題の重複を含む。また，複数場所で実施する研究課題もあることから，合計は一致しない

表2 主要目標別の平成28年度から令和2年度までの「普及に移す技術」の開発件数

主要目標	普及技術	指導活用技術※2	普及情報	合計
I 農業の東日本大震災からの再生と発展に向けた復興支援	23	19	3	45
II 食材王国みやぎを支える農畜産物の創出	33	55	30	118
III 環境に配慮した農業技術の確立	9	28	11	48
IV 環境変動に対応する技術の確立	3	7	2	12
V 効率的な農地利用のための技術の確立	14	5	2	21
VI 省力・低コスト軽労化技術の確立	7	7	1	15
VII 先進技術を活用した農業技術の確立	12	16	1	29
調査事業 社会実装事業 等	1	27	7	35
合計（延べ※1）	102	164	57	323
合計（実数）	58	115	40	213

※1 複数の主要目標や個別研究課題からなる成果技術の重複を含む。
 ※2 「指導活用技術」については，平成30年以前は「参考資料」であり，令和元年度に名称を改定したものの。

2 第9次農業試験研究推進構想（令和3～12年度）

（1）試験研究の基本方針

イ 策定の趣旨及び位置づけ

「第3期基本計画」の策定（令和3年3月）を受けて、試験研究機関が新たな技術開発を通じ本県農業の振興を推進するため、令和3年度から令和12年度までの10か年で重点的に取り組む「第9次農業試験研究推進構想」を策定した。この構想は、試験研究機関が新たな技術開発を通じて、基本計画に掲げる施策の推進方向を踏まえて農業試験研究の基本方向等を明確にするもので、基本計画における試験研究の基本戦略として位置づけられている。

ロ 試験研究の方向

基本計画に定める試験研究の役割を果たしつつ、その目標達成に貢献するため、基本計画に掲げる3つの施策の推進方向を踏まえた試験研究を推進する。

なお、試験研究の実施に当たっては、各試験研究機関単独によるもののほか、分野横断型で、あるいは国立研究開発法人や他都道府県研究機関、大学、企業と連携した研究・開発を推進するとともに、県行政や農業改良普及組織、関係団体との連携を強固にすることで、必要とされる技術を効率的に開発し、その研究成果の迅速で効果的な普及促進を図る。

【基本計画に掲げる3つの施策の推進方向】

- 時代のニーズに対応した県産食品の安定供給（豊かな食）
- 次代の人材育成と革新技術の活用による戦略的な農業の展開（儲ける農業）
- ひと・もの・ちえを総動員した持続可能な農村の構築（活力ある農村）

(2) 試験研究の現状と課題

イ 本県試験研究の現状

- 農産物等のマーケットの縮小
- 農家数の減少, 担い手の減少・高齢化
- 次世代型園芸施設の増加
- 輸入農畜産物との競争激化
- 食の外部化の進行
- 農地の大区画化
- 集落維持機能の低下
- 気候変動とリスクの増大, 気象災害の増加
- 安全・安心への関心
- 大規模経営体の増加
- アグリテックの開発・普及

ロ 本県試験研究の課題

- 次代の人材育成
- デジタルトランスフォーメーションの導入
- 生産技術の向上と経営の早期安定化
- 気象変動に対応した農畜産物の安定生産
- アグリテックの推進
- 大規模化に対応した経営能力向上
- 大規模露地園芸の定着に向けた技術開発
- 暑熱対策等の農作業環境改善のための技術開発
- バリューチェーンの構築
- 基盤整備及び技術の高度化
- 生産技術の省力化・マニュアル化・軽労化など

(3) 今後取り組むべき主要目標

これまで、農畜産物の生産性・品質の向上、担い手の育成、農業・農村の持続的発展等を目指すために、重点的に取り組むべき課題を掲げ、産官連携を強化し、地域や行政等のニーズを踏まえた実効ある試験研究に取り組み、震災地域農業の再生・発展及び農業技術の開発・高度化に努めてきた。今後も引き続き、多様化する生産・消費両面からのニーズに的確に応え、本県農業の発展に寄与する試験研究の推進と、開発された生産技術等の迅速な普及推進・社会実装が求められている。

そこで、農業・農村を取り巻く現状の課題や将来の変化に対応できる安定生産技術の開発、省力化や生産性の向上を図るためのICT等を活用したアグリテックの推進、環境負荷軽減に向けた技術開発等を推進するため、3つの主要目標、13の重点テーマを設定し、技術開発と社会実装に取り組んでいく。

(4) 主要目標毎の重点テーマ

主要目標Ⅰ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給のための研究

重点テーマ1 バリューチェーンをつなぐ高付加価値化生産技術の確立

重点テーマ2 農畜産物の安全性確保に向けた生産管理技術の確立

主要目標Ⅱ 革新技術の活用による戦略的な農業生産のための研究

重点テーマ3 農業を支える次代の人材育成支援手法の確立

重点テーマ4 ターゲットを明確に定めた新品種育成と新品目導入

重点テーマ5 優良種子・種畜の安定供給体制の強化

重点テーマ6 アグリテックの推進に向けた農業生産技術の確立

重点テーマ7 農畜産物の高品質・高収益生産技術の確立

重点テーマ8 大規模園芸産地を実現する栽培管理技術の確立

重点テーマ9 遺伝子情報やバイオテクノロジーの実用技術の確立

重点テーマ10 生産基盤の管理技術と農地の高度利用技術の確立

主要目標Ⅲ 持続可能な農業生産環境の構築に向けた研究

重点テーマ11 農業生産環境の維持・向上のための技術の確立

重点テーマ12 気候変動や異常気象に適応した生産管理技術の確立

重点テーマ13 地域資源を活用した農村の活性化支援手法の確立

3 令和2年度農業関係試験研究課題（農園研分のみ記載）

第8次推進構想 主要目標	主要課題	個別課題名	予算区分	予算額 (千円)	研究期間		
I 農業の東日本大震災からの再生と発展に向けた復興支援	1 農業生産力の回復に向けた継続支援	津波被災復旧農地における土づくり促進及び施肥技術の確立による露地野菜生産安定化	県単	342	平成29年～令和3年		
		可給態窒素を指標とした畑土壌での有機質資材施用指針の策定	事業	70	令和元年～2年		
	2 先端技術による震災後の農業発展に向けた支援		‘にこにこベリー’の「強み」創出とブランド化に向けたマーケティング	事業	827	令和元年～3年	
			イチゴオリジナル品種「にこにこベリー」の高収益生産体系の確立	県単	1,340	令和元年～3年	
			高軒高ハウスを活用した果菜類の高収益生産技術の確立	県単	2,116	平成30年～令和2年	
			大規模施設園芸経営体における作業労力の確保と適正な栽培管理手法の開発	県単	539	平成30年～令和2年	
			栽培・労務管理の最適化を加速するオープンプラットフォームの整備	受託	1,548	平成29年～令和3年	
			花きの計画生産・出荷管理システムの実証研究	受託	1,500	平成30年～令和2年	
			果実生産の大幅な省力化に向けた作業用機械の自動化・ロボット化と機械化樹形の開発	受託	3,500	平成28年～令和2年	
			大規模露地野菜の効率的栽培管理技術の実証研究	受託	6,780	平成30年～令和2年	
			3 放射性物質の動態把握と吸収抑制対策	農産物放射能対策事業	事業	7,275	平成23年～
			II 食材王国みやぎを支える農畜産物の創出	1 みやぎオリジナル品種の育成と新品目の導入	みやぎオリジナル品種育成	県単	1,024
	野菜系統適応性検定試験	受託			208	昭和53年～	
みやぎ独自の園芸生産技術の開発	県単	2,319			令和元年～5年		

第8次推進構想 主要目標	主要課題	個別課題名	予算区分	予算額 (千円)	研究期間
2 みやぎブランド農 畜産物の安定生産・出 荷のための技術開発		「食材王国みやぎ」魅力ブラッシュアップに向けたマーケティング	事業	163	令和2年 ~ 4年
		‘にこにこベリー’の「強み」創出とブランド化に向けたマーケティング	事業	827	令和元年 ~ 3年
		イチゴオリジナル品種「にこにこベリー」の高収益生産体系の確立	県単	1,340	令和元年 ~ 3年
		高軒高ハウスを活用した果菜類の高収益生産技術の確立	県単	2,116	平成30年 ~ 令和2年
		みやぎ独自の園芸生産技術の開発	県単	2,319	令和元年 ~ 5年
		イチジク、ブルーベリーの産地化に資する新技術の開発	県単	846	平成29年 ~ 令和3年
3 消費者・実需者 ニーズに応える経営手 法の解明		大規模土地利用型露地野菜経営モデルの策定	事業	406	平成30年 ~ 令和2年
		ほ場整備地区における高収益作物導入経営モデルの実証	-事業	1,480	令和2年 ~ 3年
		‘にこにこベリー’の「強み」創出とブランド化に向けたマーケティング	事業	827	令和元年 ~ 3年
		みやぎ独自の園芸生産技術の開発	県単	2,319	令和元年 ~ 5年
		農業法人の経営発展に向けた実行性あるマーケティング手法の検討	県単	311	令和2年 ~ 令和4年
4 生産資材の適正使 用とリスク管理支援		農作物病害虫防除等の新農薬並びに新肥料資材効果確認試験	受託	5,353	令和2年
		宮城県産針葉樹皮のイチゴ養液栽培への利用	県単	4,863	平成30年 ~ 令和2年
		きのこ廃菌床を利用した野菜栽培資材の開発	県単	5,213	令和2年 ~ 令和4年
5 優良種子・種畜の 安定生産技術の確立	優良種苗供給事業		事業	1,846	昭和49年 ~

第8次推進構想 主要目標	主要課題	個別課題名	予算区分	予算額 (千円)	研究期間
Ⅲ 環境に配慮した農業技術の確立	1 環境負荷を軽減する病害虫・雑草管理技術の開発	害虫防除と受粉促進のダブル効果！スマート農業に貢献する振動技術の開発	受託	4,000	令和2年～4年
		微生物殺虫・殺菌剤を用いた野菜重要病害虫のデュアルコントロール技術の確立	受託	3,000	令和2年～4年
		昆虫の寄主選択機構に着目した総合的害虫管理技術の開発	県単	940	令和元年～5年
		天敵温存植物・間作を利用した土着天敵保護強化による露地野菜害虫防除技術の開発	受託	1,300	平成30年～令和2年
		果菜類における総合的作物管理を目指した総合的病害管理技術の開発	県単	473	平成29年～令和3年
	2 温室効果ガスの排出を抑制する資源循環型農業技術の開発	振動を用いた害虫防除および作物栽培のための環境低負荷技術の開発	受託	575	令和元年～3年
		高度病害抵抗性アブラナ科野菜品種の育成	受託	3,000	平成30年～令和4年
		農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	受託	722	平成25年～令和2年
		メタン発酵消化液の作物栽培への利用	県単	6,500	平成28年～令和4年
		混合堆肥複合肥料の試作と肥効等の検討	県単	5,238	平成28年～令和3年
Ⅳ 環境変動に対応する技術の確立	1 気候温暖化や気象変動に対応する農業技術の開発	該当なし			
Ⅴ 効率的な農地利用のための技術の確立	1 効率的なほ場基盤の整備と水田の高度利用技術の確立	大規模露地野菜の効率的栽培管理技術の実証研究	受託	6,780	平成30年～令和2年
		みやぎ独自の園芸生産技術の開発	県単	2,319	令和元年～5年

第8次推進構想 主要目標	主要課題	個別課題名	予算区分	予算額 (千円)	研究期間
		大規模土地利用型露地野菜経営モデルの策定	事業	406	平成30年～令和2年
		ほ場整備地区における高収益作物導入経営モデルの実証	事業	1,480	令和2年～3年
		天敵温存植物・間作を利用した土着天敵保護強化による露地野菜害虫防除技術の開発	受託	1,300	平成30年～令和2年
	2 水稻の多面的利活用技術の確立	該当なし			
	3 飼料作物の高位安定生産技術の確立	該当なし			
Ⅵ 省力・低コスト軽 労化技術の確立	1 省力・低コスト化 技術の開発	栽培・労務管理の最適化を加速するオープンプラットフォームの整備	受託	1,548	平成29年～令和3年
		寒冷地に適した環境制御による花きの高品質・安定生産技術の開発	県単	1,242	令和元年～5年
		果実生産の大幅な省力化に向けた作業用機械の自動化・ロボット化と機械化樹形の開発	受託	3,500	平成28年～令和2年
		微生物殺虫・殺菌剤を用いた野菜重要病害虫のデュアルコントロール技術の確立	受託	3,000	令和2年～4年
		農業の「働き方改革」に向けた女性や若者等が働きやすい就労環境のモデル化	県単	482	令和元年～3年
2 軽労化・農作業環 境の改善		大規模施設園芸経営体における作業労力の確保と適正な栽培管理手法の開発	県単	539	平成30年～令和2年
		中山間地域等の多彩な園芸生産を支える省力・軽労化技術の確立	県単	680	令和元年～3年
		栽培・労務管理の最適化を加速するオープンプラットフォームの整備	受託	1,548	平成29年～令和3年
Ⅶ 先進技術を活用し た農業技術の確立	1 遺伝子情報とバイ オテクノロジーの利用 開発	病害診断における遺伝子解析技術の開発と活用	県単	1,184	平成30年～令和4年

第8次推進構想 主要目標	主要課題	個別課題名	予算区分	予算額 (千円)	研究期間
		高度病害抵抗性アブラナ科野菜品種の育成	受託	3,000	平成30年 ~ 令和4年
		園芸作物に付加価値を与えるウイルスの探索	受託	871	令和元年 ~ 3年
	2 スマート農業を実現するICT・ロボット技術の活用支援	パプリカ生産現場における栽培支援システムの実用性評価	受託	2,100	令和2年 ~ 4年
		高軒高ハウスを活用した果菜類の高収益生産技術の確立	県単	2,116	平成30年 ~ 令和2年
		栽培・労務管理の最適化を加速するオープンプラットフォームの整備	受託	1,548	平成29年 ~ 令和3年
		果実生産の大幅な省力化に向けた作業用機械の自動化・ロボット化と機械化樹形の開発	受託	3,500	平成28年 ~ 令和2年
		水田経営におけるスマート農業技術導入効果の実証	受託	681	令和2年 ~ 3年
		大規模露地野菜の効率的栽培管理技術の実証研究	受託	6,780	平成30年 ~ 令和2年
		病害虫画像識別器と発生モデルを組み合わせたデータ判別エンジン等の開発のための病害虫画像大量収集に関する研究	受託	3,900	令和2年
		AIを活用した土壌病害診断技術の開発	受託	2,250	平成29年 ~ 令和3年
		AIを活用した病害虫診断技術の開発	受託	1,770	平成29年 ~ 令和3年
	3 みやぎのオリジナル技術シーズの開発支援	みやぎの農業試験研究FS（フィージビリティスタディ）事業	県単	1,000	平成29年 ~ 令和3年

注1)ゴシック体太字は、令和2年度新規課題を示す。

注2) の課題は、重点課題を示す。

	個別課題名	予算区分	予算額 (千円)	事業期間	
調査事業	農作物有害動植物発生予察事業	事業	-	昭和26年	～
社会実装事業	先端技術展開事業の研究成果の社会実装促進	受託	9,294	平成30年	～ 令和2年
	輸出に対応できる「超低コスト米」生産体制の実証	受託	993	令和元年	～ 令和2年
	企業による直売型果樹園経営におけるスマート農業生産体系の実証	受託	1,149	令和元年	～ 令和2年
	中山間地域における精密、省力なスマート水稻種子生産技術の実証	受託	396	令和2年	～ 令和3年
	施設園芸の震災からの発展的な復興を目指したスマート農業技術の実証	受託	0	令和2年	～

Ⅲ 研究開発・技術支援等体制

1 研究人員

(令和3年3月31日現在)

部名	班・チーム名	班・チーム別分担事務	職名	氏名	研究歴	
総務部		所内の総括に関する事	所長	高橋芳浩	1	
		所内の調整に関する事	副所長兼総務部長	佐々木信一	-	
		技術部門の所内調整に関する事	副所長 (技術担当)	大内信博	2	
	総務班	部内の総括に関する事	部内の調整に関する事	部長(兼)	佐々木信一	-
			1 部内の調整に関する事	副参事兼次長 (総括担当)	山田啓勝	-
			2 出納事務に関する事			
		3 公用車等の安全運転管理に関する事				
		総務班	1 公印の管理に関する事 2 所属職員の身分・服務・教養及び福利厚生に関する事 3 文書の收受・発送・編さん及び保存に関する事 4 令達予算・決算の経理,その他会計事務に関する事 5 他内部組織の分掌に属さない事務に関する事	次長(班長)	船山和彦	-
				主幹(副班長)	佐藤敏幸	-
				主幹(副班長)	穴戸敬	-
				主査	布田清	-
				技師 (機械操作主任)	今野友紀	-
		管理班	1 公有財産の取得管理及び処分に関する事 2 庁舎の維持管理に関する事 3 農場の維持管理に関する事 4 会計年度任用職員の労務管理に関する事 5 試験研究等による生産物の処分に関する事	主幹(班長)	菅野智宏	-
				主査	加藤文夫	-
				主査	菅原智明	-
主事(副班長) (事務補主任)	鈴木優子			-		
技師 (農場業務)	伊東実			-		
		技師 (農場業務)	間隆是	-		

部名	班・チーム名	班・チーム別分担事務	職名	氏名	研究歴
企画調整部		部内の総括に関する事	部長	井上真弘	—
	企画調整チーム	1 試験研究に関する総合的な企画及び調整に関する事	技術次長	笹原剛志	—
		2 試験研究の成果の評価及びその普及に関する事	技術主幹	野澤典子	—
		3 本庁及び農業改良普及機関等との連絡調整に関する事	技師	中込佑介	—
		4 試験研究に関する資料の収集及び整理に関する事			
		5 農業指導者等の研修の企画立案及び調整に関する事			
		6 農業の技術改善の広報に関する事			
	研究支援チーム	1 試験研究に関する総合的な企画及び調整に関する事	技術主幹	小池修	—
		2 先進的園芸経営体の育成に関する総合的な企画及び調整に関する事(試験研究及び奨励指導に係るものに限る。)	技術主幹	高橋真紀	—
		3 農業指導者等の研修の企画立案及び調整に関する事			
情報経営部		部内の総括に関する事	部長	伊藤和子	21
	情報チーム	1 マーケティング手法に関する事	主任研究員	石川志保	12
		2 県産農畜産物需要拡大へ向けた消費者・実需者ニーズの評価に関する事	副主任研究員	大場圭介	1
		3 農業法人の就労環境の実態解明に関する事			
	経営チーム	1 農業経営及び地域営農の高度化に関する事	上席主任研究員	若尾昇	5
		2 新技術の導入等に向けた経営評価に関する事	主任研究員	佐藤典子	9
		3 土地利用型経営の多角化や規模拡大等へ向けた経営モデルに関する事			

部 名	班・チーム名	班・チーム別分担事務	職 名	氏 名	研究歴
野 菜 部		部内の総括に関する事	部 長	相 澤 和 浩	8
		1 部内の調整に関する事 2 部内予算管理に関する事	副 主 任 研 究 員	鈴 木 誠 一	35
	イチゴ チーム	1 園芸作物の栽培に関する事	上 席 主 任 研 究 員	櫻 井 晃 治	9
		2 園芸作物の新品種の育成に関する事	研 究 員	高 山 詩 織	8
		3 先端技術展開事業(社会実装)に関する事	研 究 員	尾 形 和 磨	6
		4 優良種苗供給事業に関する事	技 師 (農場業務主任)	今 野 順 行	—
		5 新農薬・新資材効果確認試験に関する事	技 師 (試験検査補助主任)	中 澤 陽 子	—
	施設野菜 チーム	1 園芸作物の栽培に関する事	上 席 主 任 研 究 員	神 崎 正 明	13
		2 大規模施設園芸経営体の栽培管理に関する事	技 師	金 子 壮	3
		3 複合環境制御技術に関する事			
		4 次世代施設園芸に関する事			
	露地野菜 チーム	1 園芸作物の栽培に関する事	副 主 任 研 究 員	澤 里 昭 寿	13
		2 優良種苗供給事業に関する事	技 師	高 橋 勇 人	4
		3 加工業務用野菜の安定生産に関する事	技 師	伊 藤 隼	1
		4 新農薬効果確認試験に関する事	技 師 (農場業務)	伊 藤 雅 人	—
	生産工学 チーム	1 農業生産の省力・低コスト・軽労化に関する事	主 任 研 究 員	菅 野 秀 忠	7
		2 大規模施設園芸経営体の栽培・作業管理に関する事	技 師	西 條 悠 希	1
		3 農業機械及び農作業安全に関する事			

部 名	班・チーム名	班・チーム別分担事務	職 名	氏 名	研究歴
花 き ・ 果 樹 部		部内の総括に関すること	部 長	宍 戸 夕 紀 子	1
	花 き チー ム	1 園芸作物の栽培に関すること 2 園芸作物の新品種の育成に関すること 3 委託事業に関すること (1) イノベーション創出事業に関すること (2) 花きの計画生産・出荷管理システムの実証研究(先端プロ)に関する こと 4 優良種苗供給事業に関すること	総 括 研 究 員	佐 々 木 厚	18
			主 任 研 究 員	足 立 陽 子	11
			研 究 員	津 田 花 愛	9
	果 樹 チー ム	1 園芸作物の栽培に関すること (1) 果樹の安定生産技術 (2) 宮城独自の園芸生産技術の開発 2 園芸作物の新品種の育成に関すること (1) 果樹類のオリジナル品種育成に関すること 3 園芸作物に係る機械化その他省力化に関すること 4 新農薬・新資材効果確認試験に関すること 5 革新的技術開発・緊急展開事業に関すること (1) 果樹省力化樹形開発 6 先端技術展開事業(社会実装)に関すること 7 スマート農業加速化実証プロジェクトに関すること 8 優良種苗供給事業に関すること	総 括 研 究 員	大 沼 欣 生	9
			副 主 任 研 究 員	高 嶋 名 世 瑠	5
			技 師	庄 子 雅 和	3
			技 師 (試験検査補助主任)	渡 辺 多 美 子	—
			技 師 (農場業務)	松 浦 淳	—

部名	班・チーム名	班・チーム別分担事務	職名	氏名	研究歴	
園芸環境部		部内の総括に関すること	部長	佐藤 聖一	2	
	土壌環境 チーム	1 津波被災復旧農地の土づくり及び施肥技術の確立に関すること	主任 研究員	瀧 典明	15	
		2 未利用有機質資源の有効利用に関すること	研 究 員	中 村 佳 与	3	
		3 土壌の実態調査に関すること	技 師	永 田 悦 祈	3	
		4 農作物病虫害防除等の新農薬並びに新肥料資材効果確認試験に関すること	技 師 (農場業務主任)	吉 田 健	—	
		5 農作物放射能対策事業に関すること	技 師 (試験検査補助主任)	高 橋 る み	—	
	虫 害 チーム	1 園芸作物の総合的害虫管理技術の開発に関すること	主任 研究員	関 根 崇 行	14	
		2 AIを活用した病虫害診断技術の開発に関すること	技 師	大 江 高 穂	8	
		3 農作物有害動植物発生予察事業に関すること	技 師	駒 形 泰 之	3	
	病 害 チーム	4 農作物病虫害防除等の新農薬並びに新肥料資材効果確認試験に関すること				
		1 園芸作物の総合的病害管理技術の開発に関すること	主任 研究員	大 場 淳 司	16	
		2 AIを活用した病虫害診断技術の開発に関すること	主任 研究員	尾 形 香 織	1	
		3 AIを活用した土壌病害診断技術の開発に関すること	技 師	木 村 智 志	4	
		4 農作物有害動植物発生予察事業に関すること				
	遺伝子工学 チーム	5 農作物病虫害防除等の新農薬並びに新肥料資材効果確認試験に関すること				
		1 病害診断における遺伝子解析技術の開発と活用に関すること	上席主任 研究員	千 葉 直 樹	21	
		2 病害抵抗性を利用した病害防除技術の開発に関すること	研 究 員	板 橋 建	10	
		3 AIを活用した病虫害診断技術の開発に関すること	技 師	進 藤 友 恵	1	
	会計年度任用職員 (第2号)		1 研究調査データの入力・集計等に関すること	技 師 (試験検査補助)	大 久 保 哲 子	—
				病 休 代 替 (事 務)	高 崎 繁 雄	—

2 研究予算額と研究課題数

区 分	令和2年度				令和元年度				平成30年度			
	予算額(千円)		課題数		予算額(千円)		課題数		予算額(千円)		課題数	
		割合(%)		割合(%)		割合(%)		割合(%)		割合(%)		割合(%)
管 理 費	88,398	35.4	—	—	89,655	33.1	—	—	83,701	20.9	—	—
備品・施設整備費	71,721	28.7	—	—	88,510	32.6	—	—	196,651	49.1	—	—
県単独研究費	25,936	10.4	17	31.5	17,656	6.5	16	29.6	17,725	4.4	16	30.8
受託研究費	35,115	14.0	18	33.3	43,761	16.1	19	35.2	67,954	17.0	19	36.5
震災対策受託研究費 (先端プロ ^注)	13,230	5.3	3	5.6	15,312	5.6	3	5.6	16,556	4.1	3	5.8
事業研究費等	15,607	6.2	16	29.6	16,232	6.0	16	29.6	17,544	4.4	14	26.9
合 計	250,007	100.0	54	100.0	271,126	100.0	54	100.0	400,131	100.0	52	100.0

注1) 研究予算は、2月補正予算ベースで掲載。

注2) 先端プロ：農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業（平成30年度～令和2年度）」のことで、東日本大震災の被災地域を新たな食料生産地域として再生するため、岩手・宮城・福島の3県で展開された先端的な農林水産技術を駆使した大規模実証研究事業。

※1 管理費：庁舎管理費等で、光熱水費、臨時職員等賃金、企画調整費等。

※2 県単独予算費：県の一般財源のみで運用される試験研究費。

※3 受託研究費：原資のほとんどが国庫資金の研究費。

※4 事業研究費等：県庁の関係課室から予算が令達されるもので、当該課室の施策と直接関連して実施する研究費等。課題数は令達事業の数でカウント。

3 成績検討会・設計検討会等

(1) 試験研究設計検討会

原則として3月に、部内検討会を経た次年度実施予定の研究課題について、全研究員及び県関係機関等が参加し、試験研究設計を検討する。また、年度途中から実施される課題については、部内検討会を経た後に所内研究推進会議で検討を行う。平成30年度は107課題、令和元年度は47課題、令和2年度は90課題の設計検討を行った。

(2) 試験研究成績検討会及び成果情報検討会、普及に移す技術候補課題検討会

原則として、12月と1月に実施し、部内検討会を経た研究課題の成績について、全研究員及び県関係機関等が参加し、検討会を開催する。また、冬作物対象の研究は、7月頃に同様に検討会を開催している。平成30年度は142課題、令和元年度は139課題、令和2年度は104課題の検討を行った。

【令和2年度】

開催日	会議名	内容
7月2日	令和元年度冬作試験研究成績検討会及び令和2年度冬作試験研究課題設計検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜部 成績検討 1課題 ・花き・果樹部 成績検討 3課題 ・園芸環境部 成績検討 2課題, 設計検討 2課題 計 成績検討 6課題, 設計検討 2課題
12月16日	令和2年度第1回試験研究成績検討会及び成果情報検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 成績検討 1課題 ・野菜部 成績検討 9課題, 成果情報 2課題 ・花き・果樹部 成績検討 7課題, 成果情報 1課題 計 成績検討 17課題, 成果情報 3課題
1月20, 25日	令和2年度第2回試験研究成績検討会及び普及に移す技術候補課題検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 成績検討 8課題, 普及に移す技術 1課題 ・野菜部 成績検討 10課題, 普及に移す技術 7課題 ・花き・果樹部 成績検討 4課題, 普及に移す技術 4課題 ・園芸環境部 成績検討 35課題, 普及に移す技術 9課題 計 成績検討 57課題, 普及に移す技術 21課題
3月2, 3日	令和3年度試験研究課題設計検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 設計検討 5課題 ・野菜部 設計検討 27課題 ・花き・果樹部 設計検討 29課題 ・園芸環境部 設計検討 27課題 計 設計検討 88課題

【令和元年度】

開催日	会議名	内容
6月28日	平成30年度冬作試験研究成績検討会及び令和元年度冬作試験研究課題設計検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜部 成績検討 15課題, 設計検討 3課題 ・花き・果樹部 成績検討 2課題, 設計検討 3課題 ・園芸環境部 成績検討 7課題 計 成績検討 24課題, 設計検討 6課題
12月13日	令和元年度第1回試験研究成績検討会及び成果情報検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜部 成績検討 9課題 ・花き・果樹部 成績検討 1課題, 成果情報 1課題 ・園芸環境部 成績検討 6課題, 成果情報 1課題 計 成績検討 16課題, 成果情報 2課題
1月16, 17日	令和元年度第2回試験研究成績検討会及び普及に移す技術候補課題検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 成績検討 16課題, 普及に移す技術 4課題 ・野菜部 成績検討 11課題, 普及に移す技術 5課題 ・花き・果樹部 成績検討 9課題, 普及に移す技術 3課題 ・園芸環境部 成績検討 39課題, 普及に移す技術 10課題 計 成績検討 75課題, 普及に移す技術 22課題
3月3日	令和2年度試験研究課題設計検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 設計検討 9課題 ・野菜部 設計検討 8課題 ・花き・果樹部 設計検討 6課題 ・園芸環境部 設計検討 18課題 計 設計検討 41課題

【平成30年度】

開催日	会議名	内容
7月3日	平成29年度冬作試験研究成績検討会及び平成30年冬作試験研究課題設計検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 成績検討 2課題 ・バイオテクノロジー開発部 設計検討 6課題 ・園芸栽培部 成績検討 5課題, 設計検討 3課題 ・園芸環境部 成績検討 1課題, 設計検討 3課題 計 成績検討 8課題, 設計検討 12課題
12月17, 18日	平成30年度第1回試験研究成績検討会及び成果情報検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオテクノロジー開発部 成績検討 7課題, 成果情報 4課題 ・園芸栽培部 成績検討 17課題, 成果情報 5課題 計 成績検討 24課題, 成果情報 9課題
1月16, 17日	平成30年度第2回試験研究成績検討会及び普及に移す技術候補課題検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 成績検討 14課題, 普及に移す技術 4課題 ・バイオテクノロジー開発部 成績検討 15課題, 普及に移す技術 4課題 ・園芸栽培部 成績検討 31課題, 普及に移す技術 3課題 ・園芸環境部 成績検討 24課題, 普及に移す技術 6課題 計 成績検討 84課題, 普及に移す技術 17課題
3月4～6日	平成31年試験研究課題設計検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 設計検討 8課題 ・バイオテクノロジー開発部 設計検討 14課題 ・園芸栽培部 設計検討 45課題 ・園芸環境部 設計検討 28課題 計 設計検討 95課題

(3) 発表原稿の事前審査等

成績検討会の前に研究情報の一部を公表する場合は、事前に発表原稿を作成し、所内研究推進会議の承認を得ることとしている。

IV 研究者の確保・育成

1 宮城県農業関係試験研究職員人材育成方針等の策定

豊富な専門知識と高い研究能力を備え、普及・行政等の幅広い経験を活かして地域農業の課題解決に意欲的に取り組み、本県農業の振興に貢献できる研究職員を育成するため、令和2年6月に「宮城県農業関係試験研究職員人材育成方針」を策定した。また、若手研究員の育成のため、関係要領を同年6月に定めた。

2 研究職員の研修状況

(1) 新規採用者研修・新任者研修

新任者とは、試験研究機関に初めて配属された研究職員で、新規採用者以外の者を指す。
なお、研修実績は研修実施要領の定められた令和2年度のみ。

【令和2年度研修対象者数及び内容】

対象	所属部	研修内容
新規採用者（1名）	園芸環境部	・職場基礎研修：所内各研究部の業務についての座学及び実習 ・職場OJT：所属部の研究内容について、必要な知識・技術をトレーナー職員の指導の下で、実務の中で学ぶ
新任者（1名）	野菜部	・農業・園芸総合研究所概要、各研究部の概要について ・試験研究の流れ（試験研究課題の設定から成果の報告まで） ・試験研究予算について ・研究に関するコミュニケーション、情報管理について ・共同研究契約、知的財産に関する注意点

(2) 先進農家等実務研修

新規採用2年目職員対象。令和2年度における研修対象者は無く、実施していない。

(3) 派遣研修

年度	研修区分	研修名	研修先	研修期間	研修者
令和2年度	新型コロナウイルス感染症の影響で実績なし				
令和元年度	(国研) 農研機構依頼研究員	ブドウの育種に関する研究	(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門	R1. 5. 13-R1. 6. 7	花き・果樹部 庄子 雅和
	農林水産省 農林水産関係研究リーダー研修	農林水産関係研究リーダー研修	中央合同庁舎	R1. 6. 5~R1. 6. 6	所長 江畑 正徳
	農林水産省 農林水産関係若手研究者研修	農林水産関係若手研究者研修	農林水産技術会議事務局 筑波産学連携支援センター	R1. 7. 17-7. 19	園芸環境部 大江 高徳
	(国研) 農研機構短期集合研修	スマート農業技術の経営評価手法に関する研究会	(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター	R1. 11. 6-11. 8	情報経営部 伊藤 和子
平成30年度	(国研) 農業環境技術研究所 依頼研究員	「ナシの育種に関する研究」及び「ナシの果肉障害発生抑制技術に関する研究」	(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門	H30. 8. 1~10. 31	園芸栽培部 高田 万里子
	(国研) 農研機構短期集合研修	農業生産における技術と経営の評価方法	農林水産技術会議事務局 筑波産学連携支援センター	H30. 10. 1~10. 5	情報経営部 大森 裕俊
	農林水産省 農林水産関係若手研究者研修	農林水産関係若手研究者研修	農林水産技術会議事務局 筑波産学連携支援センター	H30. 11. 28~11. 30	バイオテクノロジー開発部 高橋 勇人

(4) 職場内研修

年度	研修内容	開催年月日
令和2年度	転入職員のオリエンテーション(施設, ほ場, 研究概要等)	R2. 4. 6
	所内研修「研究倫理, 公的試験研究費の適正使用について」	R2. 5. 12, R2. 5. 14
	所内研修「知的財産権に関する勉強会, 宮城大学との連携促進に向けたシーズの紹介」	R2. 10. 13
令和元年度	転入職員のオリエンテーション(施設, ほ場, 研究概要等)	R元. 4. 8
	所内研修「研究倫理, 公的試験研究費の適正使用について」	R元. 5. 16
	所内研修「依頼研究員派遣研修報告, 知的財産権勉強会(種苗法の基礎と農作物のブランド化)等」	R元. 10. 29
平成30年度	転入職員のオリエンテーション(施設, ほ場, 研究概要等)	H30. 4. 9
	所内研修「研究倫理, 公的試験研究費の適正使用について」	H30. 5. 16
	所内研修「依頼研究員派遣研修報告, 共同研究契約の進め方等」	H31. 3. 6

(5) 業際研究会

業際研究会は、「宮城県試験研究機関場所長会」(平成14年設立)の下部組織として発足した。
研究会は、宮城県の試験研究機関が業種の枠を超えて相互に交流・勉強する場を設定し相互理解を深めると共に、連携して実施できる課題を模索することを目的としている。各年度2回程度の、若手研究員を中心とした交流会を開催している。

年度	交流会開催回数	概要
令和2年度	1	新型コロナウイルスの影響により、令和3年1月にWeb開催(各試験研究機関の研究トピックスを掲載し、意見交換を実施)
令和元年度	2	10月:水産技術総合センター視察 12月:各試験研究機関研究成果のポスターセッション(会場は水技センター)
平成30年度	2	10月:農業・園芸総合研究所視察 12月:林業技術総合センター視察

3 表彰・学位

(1) 学位

区 分	平成30年		令和元年		令和2年	
	博士	修士	博士	修士	博士	修士
取得在籍者	7	13	6	13	4	17
うち新規取得者	—	—	—	—	—	—

(2) 表彰

イ 職員表彰

【令和2年度】

所 属	職 氏 名	表 彰 名	内 容
総務部	主査 加藤 文夫	所属長表彰	財産管理業務への貢献
企画調整部	技師 中込 佑介	所属長表彰	新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたWeb会議の推進と広報活動の改善
企画調整部	技術次長 笹原 剛志	所属長表彰	第9次農業試験研究推進構想策定に向けたたていねいな調整と創意工夫
情報経営部	主任研究員 佐藤 典子	所属長表彰 令和3年度農政部長表彰	土地利用型経営の露地園芸品目導入及び産地化支援に向けた手引きの策定
野菜部 企画調整部	主任研究員 菅野 秀忠 技術主幹 小池 修 技師 西條 悠希 技師 中込 佑介 会計年度任用職員 遠藤 柳子 技術主査 高橋 正明	所属長表彰	暑熱対策の普及、社会実装による熱中症事故防止の意識啓発
野菜部 園芸環境部	技師 高橋 勇人 副主任研究員 澤里 昭寿 技師 伊藤 隼 技師（農場業務） 伊藤 雅人 上席主任研究員 千葉 直樹 研究員 板橋 建 技師 進藤 友恵 技師（試験検査補助） 大久保 哲子	所属長表彰	新品種「Re14-4」の早期普及によるセリ生産振興
野菜部	上席主任研究員 神崎 正明 技師 金子 壮	所属長表彰 令和3年度農政部長表彰	データ駆動型農業推進の基盤となる施設園芸栽培支援ツールの開発
花き・果樹部	主任研究員 足立 陽子	所属長表彰 令和3年度農政部長表彰	東京オリンピックビクトリーブーケに適したヒマワリの栽培技術開発

花き・果樹部 情報経営部 野菜部 総務部	総括研究員 主任研究員 上席主任研究員 上席主任研究員 主幹(班長)	大沼 欣生 石川 志保 神崎 正明 千葉 直樹 菅野 智宏	所属長表彰	園芸産出倍増に向けた試験研究成果を効率的に達成するための将来に向けた施設整備等の課題と方向性の提案
花き・果樹部 情報経営部 野菜部 企画調整部 園芸環境部	総括研究員 主任研究員 副主任研究員 主任研究員 技術主幹	佐々木 厚 佐藤 典子 澤里 昭寿 瀧 典明 小池 修	所属長表彰	園芸産出額倍増に向けた大規模露地園芸技術開発の提案
園芸環境部	主任研究員	瀧 典明	所属長表彰	ドローン空撮画像による露地野菜の生育評価手法等の確立

【令和元年度】

所 属	職 氏 名	表 彰 名	内 容
企画調整部	技術主幹 小池 修	所属長表彰	新規チームにおける研究の総合的マネジメントに向けた創意工夫
情報経営部 野菜部	総括研究員 伊藤 和子 上席主任研究員 大森 裕俊 研究員 澤里 昭寿 技師 高橋 勇人	所属長表彰	土地利用型経営の露地野菜等導入拡大に向けた研究推進
野菜部 情報経営部	研究員 高山 詩織 上席主任研究員 櫻井 晃治 技師 尾形 和麿 技師(農場業務主任) 今野 順行 技師(試験検査補助主任) 中澤 陽子 主任研究員 石川 志保 研究員 本田 めぐみ	所属長表彰 令和2年度農政部長表彰	新品種『にこにこベリー』によるイチゴの生産振興
花き・果樹部	技師 高田 万里子 上席主任研究員 大沼 欣夫 技師 庄子 雅和	所属長表彰	新たな樹形等開発によるリンゴ産地の維持・発展への貢献
園芸環境部	研究員 中村 佳与	所属長表彰	農薬の後作物残留を未然に防止する登録制度の提案

【平成30年度】

所 属	職 氏 名	表 彰 名	内 容
企画調整部	技師 北川 誉紘 技術次長 門間 豊資	所属長表彰	研究成果の現地普及を促進する「先端プロ (社会実装促進業務委託事業)」の推進
情報経営部 園芸栽培部	主任研究員 菅野 千秋 研究員 本多 めぐみ 上席主任研究員 鹿野 弘 研究員 高山 詩織	所属長表彰	” にこにこベリー” デビューへ向けたマー ケティング
パイオテクノロジー開発部	研究員 澤里 昭寿 研究員 板橋 建 技師 大坂 正明 主任研究員 櫻井 晃治 上席主任研究員 千葉 直樹 技師 高橋 勇人 技師(農場業務主任) 伊藤 雅人 技師(試験検査補助主任) 大久保 哲子	所属長表彰	イチゴ新品種『にこにこベリー』の無病苗の 育成
園芸栽培部	技師 尾形 和磨 上席主任研究員 鹿野 弘	所属長表彰 令和元年度農政部長表彰	生鮮ハウレンソウで全国初・機能性表示販売 を実現
園芸環境部	技師 鈴木 香深	所属長表彰	UV-Bによるイチゴのハダニ類の防除技術 開発
園芸環境部	主任研究員 大場 淳司 研究員 近藤 誠 技師 木村 智志	所属長表彰	落葉処理によるナシ黒星病被害軽減技術開発

(3) 品種登録・発明等に係る報奨

【平成30年度】

所 属	氏 名	報 償 名	内 容	備 考
園芸環境部 北部地方振興事務所	関根 崇行 猪苗代 翔太 ※	発明等奨励金	振動による害虫防除および 作物受粉の方法	※現 みやぎ米推進課

【令和元年度】

所 属	氏 名	報 償 名	内 容	備 考
園芸栽培部兼野菜部 野菜部 園芸環境部 園芸環境部 野菜部	大坂 正明 ※ 澤里 昭寿 ※※ 板橋 建 千葉 直樹 高橋 勇人	発明等奨励金	せり「Re14-4」	※退職 ※※現 農村振興課

V 研究施設・設備等，研究環境の整備

1 施設・設備の概要

(1) 所在地

施設名	所在地	位置		
		東経	北緯	標高
農業・園芸総合研究所	宮城県名取市高館川上字東金剛寺1番地	140° 51'	38° 10'	46.038m
〃 岩沼分庁舎	宮城県岩沼市字東谷地1番地	140° 51'	38° 07'	5.000m

(2) 土地及び施設等

イ 土地

(単位：㎡)

名称	区分	水田	畑	その他	計
農業・園芸総合研究所		101,286	8,720	853,036	963,042
農業・園芸総合研究所借用地		37,319	31,870	2,714	71,903

ロ 施設

(イ) 農業・園芸総合研究所 合計 83棟 24,799.99㎡

区分	棟数	面積(㎡)	区分	棟数	面積(㎡)	区分	棟数	面積(㎡)
一般管理施設	13	8,644.70	研究用施設	48	8,934.31	鉄骨ハウス等	10	3,107.60
本館	1	7,965.10	植物バ 休館	1	634.12	その他	15	1,256.35
倉庫	1	180.00	管理収納舎，温室	8	1,304.17	研修用施設	6	4,513.01
車庫	3	352.60	農産加工研究棟	1	443.40	研修宿泊棟	1	2,567.80
その他	8	147.00	乾燥舎	5	706.66	トラクター格納庫	1	630.00
圃場管理施設	16	2,707.88	網室	5	976.02	機械整備舎	1	517.00
堆肥舎	2	802.73	貯蔵選別舎	1	210.60	露地野菜研修施設舎	1	442.20
作業舎	6	1,207.32	育苗棟	1	185.39	機械性能検定舎	1	349.80
その他	8	697.83	バ イ ト ン 舎	1	110.00	その他	1	6.21

(ロ) 岩沼分庁舎 合計 27棟 4,047.62㎡

区分	棟数	面積(㎡)	区分	棟数	面積(㎡)	区分	棟数	面積(㎡)
一般管理施設	1	367.47	研究用施設	13	2,094.39	圃場管理用施設	11	1,585.76
本館	1	367.47	網室	4	973.44	堆肥舎	3	353.20
			温室	4	468.26	収納舎	2	509.14
			原種等調整・貯蔵舎	1	406.23	その他	6	723.42
			その他	4	246.46			

2 重要物品等

(1) 機械・器具

(令和3年3月31日現在)

名称	構造又は規格	用途	取得年月日	前年度末現在高	決算年度末現在高	摘要
				台帳価格	台帳価格	
一般機械器具類	土壌診断情報データベースシステム 日本コンピューターマッピング(株)製 PC-9821XT	試験研究	H8.2.29	1台	1台	
				2,245,400円	2,245,400円	
"	NaI(Tl)式ガンマ線スペクトル測定装置 日立アロマエディカル製 CAN-OSP-NAI	試験研究	H23.10.20	1台	1台	
				4,725,000円	4,725,000円	
工事機械器具類	小型後方小旋回ミニパワーショベル ヤンマーディーゼル Vio-20	試験研究	H16.12.14	1台	1台	
				2,625,000円	2,625,000円	
"	ミニショベル(バックホー) ヤンマー建機(株) VIO25-6	農場管理	R3.2.25	0台	1台	R3.3.3 農業振興課より管理換
				0円	4,235,000円	
農林漁業用機械器具類	促成用低温恒温恒湿器 小糸工業製 コイトロン CH-特殊型	促成技術 確立試験	S52.1.17	1台	1台	
				3,400,000円	3,400,000円	
"	照射用軟X線装置 ソフテックス製 M-150W	試験研究	H1.3.27	1台	1台	
				4,730,000円	4,730,000円	
"	高速フロー遺伝子導入装置 日本分光製 CET-200	試験研究	H1.3.27	1台	1台	
				2,380,000円	2,380,000円	
"	ミニパワーショベル 小松製作所製 PC10-6	試験研究	H1.7.31	1台	1台	
				2,599,720円	2,599,720円	
"	走査像観察システム 日本電子製 JSM-5200 附属品走査像撮影装置	試験研究	H1.10.3	1台	1台	
				5,125,280円	5,125,280円	
"	トラクター クボタ製 X-24HT	農場管理	H2.5.8	1台	1台	
				2,008,500円	2,008,500円	
"	トラクター クボタ製 L1-295DBMASPR	農場管理	H2.12.14	1台	1台	
				3,244,500円	3,244,500円	
"	プログラムフリーザー 英国プラナー社製 KRYO-10/16	試験研究	H3.3.20	1台	1台	
				4,815,250円	4,815,250円	

名称	構造又は規格	用途	取得年月日	前年度末現在高	決算年度末現在高	摘要
				台帳価格	台帳価格	
農林漁業用機械器具類	トラクター クボタ製 GL-29FBMAXSP	原種事業	H3.4.23	1 台	1 台	
				3,914,000 円	3,914,000 円	
"	閉鎖系人工気象装置 小糸工業製 KG-206-SHL-D	試験研究	H5.3.25	1 台	1 台	
				35,844,000 円	35,844,000 円	
"	トラクター ヤンマー製 (AF28) XUQHKC5	農場管理	H6.5.30	1 台	1 台	
				2,987,000 円	2,987,000 円	
"	回転ドラム型ファーマンターシステム SYS20014	試験栽培	H7.3.29	1 台	1 台	
				3,708,000 円	3,708,000 円	
"	パーティクルガン バイオラッド製 PDS-1000/He	試験研究	H8.7.31	1 台	1 台	
				5,871,000 円	5,871,000 円	
"	種子貯蔵庫	試験研究	H11.12.28	1 台	1 台	
				4,662,000 円	4,662,000 円	
"	トラクター クボタ製 (KL34H) KLF-11295	農場管理	H13.11.28	1 台	1 台	
				3,391,500 円	3,391,500 円	
"	果実選果機 静岡シブヤ精機製 選果コンベヤー他一式	試験研究	H22.3.19	1 台	1 台	
				9,324,000 円	9,324,000 円	
"	トラクター ヤンマー製 EG227VUQK7M	農場管理	H24.2.29	1 台	1 台	
				3,444,000 円	3,444,000 円	
"	キャベツ収穫機 ヤンマー製 HC-125	試験研究	H25.10.28	1 台	1 台	
				8,085,000 円	8,085,000 円	
"	スピードスプレーヤ 丸山製作所製 SSA-V600C-1	試験栽培	H25.11.15	1 台	1 台	
				4,389,000 円	4,389,000 円	
"	乗用管理機 イセキ製 JBK17CH2NWM	試験栽培	H25.12.12	1 台	1 台	
				3,599,400 円	3,599,400 円	
"	トラクター イセキ製 TH256BCY	試験栽培	H25.12.12	1 台	1 台	
				2,992,500 円	2,992,500 円	
"	ミニショベル IHI建機製 25V4.(Four) 法面バケット付	試験栽培	H28.8.25	1 台	1 台	
				2,964,600 円	2,964,600 円	

名 称	構 造 又 は 規 格	用 途	取得年月日	前年度末現在高	決算年度末現在高	摘 要
				台帳価格	台帳価格	
農林漁業用機械器具類	Coo1BIMセミドライフォグ微霧冷房加湿システム (株)いけうち製 ユニット (噴霧, 給水・制御, 配管)	試験研究	H28.9.27	1 台	1 台	
				2,592,000 円	2,592,000 円	
"	イチゴ苗用ポータブル式蒸熱処理装置 (株)FTH製 VHC-15FV	試験研究	H28.9.29	1 台	1 台	
				2,700,000 円	2,700,000 円	
"	スピードスプレーヤ (株)ショーシン製 3S-FSC600TLG	試験栽培	H28.10.12	1 台	1 台	
				4,806,000 円	4,806,000 円	
"	プレハブ恒温恒湿室 パナソニック(株)製 恒温ユニットMCU-1162FEほか	試験研究	H28.12.26	1 台	1 台	
				8,683,200 円	8,683,200 円	
"	トラクター キセキ(株)製 NTA343FFCGQCYロードマスター等付属品	農場管理	H29.1.31	1 台	1 台	
				5,033,880 円	5,033,880 円	
"	乗用管理機 丸山製作所製 BSA-500E-2	農場管理	H29.9.28	1 台	1 台	
				2,168,262 円	2,168,262 円	
"	自動比色測定装置 ビーエルテック(株) オートアナライザー3型一式	試験研究	H29.12.25	1 台	1 台	
				12,549,600 円	12,549,600 円	
"	クリープメーター (株)山電 RE2-3305-1, 2一式	試験研究	H30.1.4	1 台	1 台	
				3,132,000 円	3,132,000 円	
"	夜冷育苗システム 阿部鉄工(株)製 200型縦出 (適応作物, イチゴ)	試験研究	H30.9.7	1 台	1 台	
				2,786,400 円	2,786,400 円	
測量測定器具類	エライザ用分光光度計 東洋曹達工業製 マイクロプレートリーダー MPR-A4式	試験研究	S62.3.25	1 台	1 台	
				2,473,000 円	2,473,000 円	
"	光合成測定装置一式 (ガス交換システム外) ガス相酸素蛍光測定用キュベット (LD2/2) ほか	試験研究	H9.12.2	1 台	1 台	
				4,441,500 円	4,441,500 円	
試験分析機具類	恒温接種装置 東芝製 コールドチェーン	農作物 対 策	S55.2.22	1 台	1 台	
				2,000,000 円	2,000,000 円	
"	有機酸分析システム TWINCLE	農産加工	S59.9.26	1 台	1 台	
				2,980,000 円	2,980,000 円	
"	超遠心分離機 日立工機製 70P-72	試験研究	H1.12.20	1 台	1 台	
				8,652,000 円	8,652,000 円	

名 称	構 造 又 は 規 格	用 途	取得年月日	前年度末現在高	決算年度末現在高	摘 要
				台 帳 価 格	台 帳 価 格	
試験分析機具類	夜冷短日処理装置 小糸工業製 コイトトロンDL-300R特殊型	試験研究	H1. 12. 27	1 台	1 台	
				9,980,700 円	9,980,700 円	
"	液晶式低周波超音波計測器 日立建機製 DT-500C	試験研究	H4. 9. 30	1 台	1 台	
				2,472,000 円	2,472,000 円	
"	自動大気中農薬捕集装置 化学分析コンサルタント製 AS4000 (2台) 他	農業汚染 等調査	H6. 3. 25	1 台	1 台	
				4,923,400 円	4,923,400 円	
"	高速液体クロマトグラフ分析システム LCSS-900	試験研究	H6. 11. 30	1 台	1 台	
				5,932,800 円	5,932,800 円	
"	デンストグラフ AE-6920-MFN	試験研究	H7. 6. 30	1 台	1 台	
				5,386,900 円	5,386,900 円	
"	ガスクロマトグラフ分析システム GC-14BPSTF	試験研究	H8. 3. 1	1 台	1 台	
				8,099,920 円	8,099,920 円	
"	ジャーファーマンターシステム (株)東京理化製 回転ドラムファーマンター 外	試験研究	H8. 11. 14	1 台	1 台	
				2,770,700 円	2,770,700 円	
"	ガスクロマトグラフ質量分析計 バリアン社製 SATURN2000型	農薬分析	H9. 3. 17	1 台	1 台	
				11,845,000 円	11,845,000 円	
"	分離用小型超遠心機一式 日立製 小型遠心機本体(CS120GX)	試験研究	H9. 8. 25	1 台	1 台	
				4,494,000 円	4,494,000 円	
"	8槽式マルチインキュベーター バイオマルチインキュベーター LH-30-8CT	試験研究	H10. 7. 9	1 台	0 台	R2. 12. 15廃棄
				2,060,100 円	0 円	
"	ICP発光分光分析装置 バリアンリバティ2一式	試験研究	H11. 10. 29	1 台	1 台	
				11,865,000 円	11,865,000 円	
"	ルミノ・イメージアナライザ 富士写真フィルム製 LAS-1000plus	試験研究	H14. 11. 6	1 台	1 台	
				5,796,000 円	5,796,000 円	
"	表面筋電位計測装置 竹井機器工業製 TEAC-BA1104	試験研究	H20. 11. 26	1 台	1 台	
				2,798,250 円	2,798,250 円	
"	全窒素全炭素測定装置 住化分析センター製 NC-22F	試験研究	H21. 10. 20	1 台	1 台	
				7,749,000 円	7,749,000 円	

名称	構造又は規格	用途	取得年月日	前年度末現在高	決算年度末現在高	摘要
				台帳価格	台帳価格	
試験分析機具類	イオンクロマトグラフ分析装置 日本ダイオネクス(株)製 ICS-1600システム一式	試験研究	H21.11.26	1台	1台	
				8,662,500円	8,662,500円	
"	ガスクロマトグラフ アジレントテクノロジー製 Agilent 7890A GCシステム	試験研究	H21.12.18	1台	1台	
				7,266,000円	7,266,000円	
"	液体クロマトグラフ分析装置 アジレントテクノロジー製 1200LGシステム	試験研究	H21.12.18	1台	1台	
				6,804,000円	6,804,000円	
"	リアルタイムPCRシステム LightCycler96 インストゥメント Control PC Desktop	試験研究	H27.11.26	1台	1台	
				2,700,000円	2,700,000円	
"	本体基本装置(蛍光顕微鏡) カールツァイスマイクロコピー(株) AxioObserver5ほか	試験研究	H29.8.18	1台	1台	
				2,973,510円	2,973,510円	
"	ICP発光分光分析装置 (株)パーキンエルマージャパン Avio500 CYCLON ICP-OES	試験研究	H31.1.18	1台	1台	
				5,940,000円	5,940,000円	
"	マイクロウェーブ試料前処理システム(ICP発光分光分析装置) (株)パーキンエルマージャパン Titan MPS 8	試験研究	H31.1.18	1台	1台	
				2,793,960円	2,793,960円	
"	透過電子顕微鏡ほか (株)日立ハイテクノロジーズ製 透過電子顕微鏡HT7800 (組込オプション含む)	試験研究	R2.2.25	1台	1台	
				47,597,000円	47,597,000円	
"	コントローラ(液晶モニター含む) (株)キーエンス VHX-7000SP1589	試験研究	R2.9.28	0台	1台	R2.10.14 農業振興課より管理換
				0円	4,015,000円	
"	ズームレンズ (株)キーエンス VH-ZST	試験研究	R2.9.28	0台	1台	R2.10.14 農業振興課より管理換
				0円	2,178,000円	
"	ビデオカメラ (株)フォトロン FASTCAM Mini UX50 type160K-M-8GB	試験研究	R3.1.28	0台	1台	R3.2.5 農業振興課より管理換
				0円	2,540,846円	
"	バイオマルチインキュベータ (株)日本医化器械製作所 LH-30LED-8CTSL型	試験研究	R3.2.12	0台	1台	R3.2.22 農業振興課より管理換
				0円	3,201,000円	
計				61台	65台	
				368,983,232円	383,092,978円	

(2) 車両

(令和3年3月31日現在)

名 称	構 造 又 は 規 格	車 台 番 号	登録番号	取得年月日	車検有効期間満了日	前年度末現在高	決算年度末現在高	摘 要
						台帳価格	台帳価格	
小型乗用自動車	ホンダ インサ付 21年式	ZE2-1160148	宮城 502 ね9996	H21.9.15	R4.9.13	1,828,759 円	1,828,759 円	
普通乗用自動車	トヨタ プリウス 21年式	ZVW30-1129196	宮城 301 な4189	H21.12.16	R4.12.13	1,872,943 円	1,872,943 円	
〃	トヨタ プリウス 21年式	ZVW30-0098487	宮城 301 な4190	H21.12.16	R4.12.13	1,872,943 円	1,872,943 円	
〃	トヨタ プリウス 22年式	ZVW30-5115635	宮城 301 な6500	H22.2.4	R5.2.2	1,850,896 円	1,850,896 円	
普通貨物自動車	日野 P-FC170AD 1年式	FC170A11786	宮城 11 ち5609	H1.6.28	R3.6.26	3,069,400 円	3,069,400 円	更新後満了日R4.6.26
〃	イスゞ キャブオーバ 28年式	NPR85-7063539	宮城 100 た 5145	H29.1.27	R4.1.23	6,026,400 円	6,026,400 円	
小型貨物自動車	ニッサン キャブオーバ 10年式	AKR66E-7750455	宮城400 さ2506	H10.7.31	R3.7.29	2,100,000 円	2,100,000 円	更新後満了日R4.7.29
〃	三菱 キャブオーバ 3年式	FE301B-460064	宮城 46 て2854	H3.7.19	R3.7.17	1,854,000 円	1,854,000 円	更新後満了日R4.7.17
〃	ダイハツ タンブ 4年式	V98-64944	宮城 46 な2972	H4.7.28	R3.7.26	1,884,900 円	1,884,900 円	更新後満了日R4.7.26
〃	ホンダ シビックバン 7年式	EY4-1101189	宮城 46 の4609	H7.2.7	R3.2.5	894,040 円	894,040 円	廃棄予定
〃	ホンダ パートナー 9年式	EY7-1101205	宮城 46 ほ2386	H9.6.20	R3.6.18	838,950 円	838,950 円	更新後満了日R4.6.18
〃	ニッサン ADバソDX 22年式	VZNY12-004698	宮城 400 な3267	H22.1.21	R4.1.19	1,033,095 円	1,033,095 円	
〃	ニッサン ADバソ 28年式	VY12-221323	宮城 400 ね 380	H28.9.23	R3.9.20	1,112,400 円	1,112,400 円	更新後満了日R4.9.20
乗合自動車	三菱 キャブオーバ 8年式	BE438E-40625	宮城 22 す2717	H8.6.21	R3.6.19	2,975,670 円	2,975,670 円	更新後満了日R4.6.19
果樹用自動走行車両一式 (JBO2改荷台付自動走行車両)	ヤマハ発動機(株)製 全長3.14m,最大幅1.35m,全高1.25m	車体番号 #220152		H30.12.21		8,203,680 円	8,203,680 円	
計						15 台	15 台	
						37,418,076 円	37,418,076 円	
合 計						76 台	80 台	
						406,401,308 円	420,511,054 円	

VI 共同研究等産学官連携による研究内容の充実（効率的な研究を推進する観点からの効果的な役割分担）

1 受託研究（農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」を除く）

(1) 年間受託課題数

受託区分(委託者)	令和2年度	令和元年度	平成30年度	備 考
農林水産技術会議	7	7	3	農林水産省農林水産技術会議
生研支援センター	4	8	12	生物系特定産業技術研究支援センター
科 研 費	2	2	0	科学研究費助成事業
民 間 等	1	1	1	民間企業, 社団法人, 財団法人等
そ の 他	2	3	3	その他上記に分類されないもの
合 計	16	21	19	

(2) 受託課題一覧

No.	課 題 名	実 施 年 度	受 託 区 分	研究代表機関または委託者
1	農作物病害虫防除等の新農薬並びに新肥料資材効果確認試験	単年度契約	民 間 等	(一社) 宮城県植物防疫協会
2	野菜系統適応性検定試験	単年度契約	そ の 他	農研機構 野菜花き研究部門
3	持続可能な農業生産のための新たな植物保護技術の開発	平成26~30年度	生研支援センター	農研機構 中央農業研究センター
4	国産花きの国際競争力強化のための技術開発(実需ニーズの高い新系統及び低コスト栽培技術の開発)	平成27~令和元年度	そ の 他	農研機構 野菜花き研究部門
5	次世代バンカー資材キットによるアブラムシ類基盤的防除技術の実証・普及	平成28~30年度	生研支援センター	農研機構 中央農業研究センター
6	健康の維持増進に有用な機能性成分含有野菜の栽培実証と機能性表示食品の開発	平成28~30年度	生研支援センター	宮城県農業・園芸総合研究所
7	東北の水田地域への春タマネギを核とした野菜作の導入と実証	平成28~30年度	生研支援センター	農研機構 東北農業研究センター
8	生果実(イチゴ)の東南アジア・北米等への輸出を促進するための輸出相手国の残留農薬基準値に対応したIPM体系の開発ならびに現地実証	平成28~30年度	生研支援センター	農研機構 野菜花き研究部門
9	モモ・ナシの高品質・安定生産を実現する病害虫防除技術体系の実証研究	平成28~30年度	生研支援センター	農研機構 果樹茶業研究部門
10	各地域に適したリンゴ早期成園化技術の実証	平成29~令和元年度	生研支援センター	農研機構 果樹茶業研究部門
11	果樹生産の大幅な省力化に向けた作業用機械の自動化・ロボット化と機械化樹形の開発	平成29~令和2年度	生研支援センター	農研機構 果樹茶業研究部門
12	作業管理システム及び生育予測を核とした大規模施設園芸発展スキームの構築	平成29~令和元年度	生研支援センター	農研機構 野菜花き研究部門
13	農薬の後作物残留を未然に防止する登録制度の提案	平成29~令和元年度	そ の 他	農研機構 農業環境変動研究センター
14	3次元形状計測センサ(キネクト)を活用する施設果菜類の群落光合成測定と草勢制御	平成29~令和元年度	生研支援センター	農研機構 野菜花き研究部門
15	短時間変温管理法に基づく主要花き類の周年安定生産技術の開発	平成29~令和3年度	農林水産技術会議	農研機構 野菜花き研究部門
16	栽培・労務管理の最適化を加速するオープンプラットフォームの整備	平成29~令和3年度	農林水産技術会議	農研機構 中央農研センター
17	AIを活用した土壌病害診断技術の開発	平成29~令和3年度	農林水産技術会議	農研機構 中央農研センター
18	AIを活用した病害虫診断技術の開発	平成29~令和3年度	農林水産技術会議	農研機構 中央農研センター
19	高度病害抵抗性アブラナ科野菜品種の育成	平成30~令和4年度	生研支援センター	神戸大学
20	天敵温存植物・間作を利用した土着天敵保護強化による露地野菜害虫防除技術の開発	令和元~2年度	農林水産技術会議	農研機構 中央農研センター
21	輸出に対応できる「超低コスト米」生産体制の実証	令和元~2年度	農林水産技術会議	宮城県農政部 農業振興課
22	企業による直売型果樹園経営におけるスマート農業生産体系の実証	令和元~2年度	農林水産技術会議	農研機構 果樹茶業研究部門
23	振動を用いた害虫防除および作物栽培のための環境低負荷技術の開発	令和元~3年度	科 研 費	森林総研
24	園芸作物に付加価値を与えるウイルスの探索	令和元~3年度	科 研 費	宮城大学 食産業学群
25	病害虫画像識別器と発生モデルを組み合わせたデータ判別エンジン等の開発のための病害虫画像大量収集に関する研究	令和2年度	そ の 他	農研機構 農業情報研究センター
26	施設園芸多品目に対応可能な運搬・出荷作業等の自動化技術の実証	令和2年度	農林水産技術会議	宮城県農政部 園芸振興室
27	中山間地域における精密、省力なスマート水稲種子生産技術の実証	令和2~3年度	農林水産技術会議	宮城県農政部 農業振興課
28	パブリカ生産現場における栽培支援システムの実用性評価	令和2~4年度	生研支援センター	農研機構 野菜花き研究部門
29	微生物殺虫剤・殺菌剤を用いた野菜重要病害虫のデュアルコントロール技術の確立	令和2~4年度	生研支援センター	農研機構 野菜花き研究部門
30	害虫防除と受粉促進のダブル効果！スマート農業に貢献する振動技術の開発	令和2~4年度	生研支援センター	電気通信大学

2 農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業（平成30～令和2年度）」^{注)}（平成30～令和2年度の農園研関連のみ記載）

平成30年度から令和2年度にかけて、農業分野における新たな技術的課題を解決するための現地実証研究や実用化された技術の速やかな社会実装を図るための社会実装促進業務を実施した。

注) 東日本大震災の被災地域を新たな食料生産地域として再生するため、岩手・宮城・福島の3県で展開された先端的な農林水産技術を駆使した大規模実証研究事業のこと。

(1) 事業一覧(農園研関連分)

No.	事業名(研究課題名)	研究実施期間	担当研究成果
1	社会実装促進業務委託事業(農業分野)	平成30～令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・大区画圃場におけるプラウ耕耘田直播 ・既存施設を活用した水稲移植栽培の低コスト化技術大系 ・キャベツ等露地野菜の安定生産技術 ・水稲育苗ハウスの有効利用技術 ・イチゴクラウン温度制御 ・イチゴにおける総合的病害虫管理(IPM) ・ブドウ「シャインマスカット」栽培技術
2	大規模露地野菜の効率的栽培管理技術の実証研究	平成30～令和2年度	先端技術を活用した圃場排水、保水、地力の見える化と管理技術の確立 効率的な大規模栽培のためのタマネギ新技術
3	花きの計画生産・出荷管理システムの実証研究委託事業	平成30～令和2年度	露地花き(キク類)の計画生産・出荷管理技術の実証研究

(2) 事業内容

No.	事業名(研究課題名)	国立研究開発法人	公設研究機関等	大学法人	民間企業等	事業・研究の内容(農園研担当分)
1	社会実装促進業務委託事業(農業分野)	農研機構東北農研※	宮城農園研 宮城古川農試 岩手県 公益社団法人岩手県農産物改良種苗センター 福島県			土地利用型営農技術(大区画圃場におけるプラウ耕耘田直播技術、既存施設を活用した水稲移植栽培の低コスト化技術体系、キャベツ等露地野菜の安定生産技術、水稲育苗ハウスの有効利用技術)及び施設園芸栽培の省力化・高品質化技術(イチゴクラウン温度制御技術、イチゴにおける総合的病害虫管理(IPM))、被災地の早期復興に資する果樹生産・利用技術(ブドウ「シャインマスカット」栽培技術)について、展示圃の管理運営や現地研修会等を実施し、社会実装を促進する。
2	大規模露地野菜の効率的栽培管理技術の実証研究	農研機構東北農研	宮城農園研 宮城古川農試 福島県※		株式会社ビジョンテック 大起理化学工業株式会社 一般社団法人 食品需給研究センター	ドローン空撮画像による圃場間・内の土壌水分の分布状況の評価技術の導入・活用マニュアルの作成、タマネギにおける秋まき作型の生産技術のマニュアル化を達成目標とする。
3	花きの計画生産・出荷管理システムの実証研究委託事業	農研機構 野菜花き研究部門	宮城農園研 福島県※ 秋田県農業試験場 広島県 鹿児島県農業開発総合センター	東京農業大学	一般社団法人食品需給研究センター 株式会社 いわき花匠 株式会社ダブルエム 揖斐川工業株式会社 株式会社インテック	露地花き(キク類)の計画生産・出荷管理技術の実証研究の内、計画生産と機械化による生産効率向上のための技術体系の確立を実施する。

※印は研究代表機関

3 共同研究等

No.	課 題 名	実施年度	契約区分	契約相手先
1	寒冷地向けイチゴ品種の育成に関する研究	令和元～3年度	共同研究	農研機構 東北農業研究センター他
2	四季成り性イチゴ生産の夏期高温対策技術の確立（グリーンハウスの温熱空気環境制御に関する研究）	平成30年度	共同研究	東北大学大学院 工学研究科
3	収益性の高いカラーピーマンの栽培管理手法の開発	平成30～令和2年度	共同研究	宮城大学 食産業学群
4	寒冷地に適した環境制御による花きの高品質・安定生産技術の開発	令和元～5年度	共同研究	株式会社共立電照
5	宮城県における加工用バレイショ経営指標の策定	令和元～2年度	共同研究	カルビーポテト株式会社

4 プラットフォームへの参画状況

プラットフォームとは農林水産省が平成28年4月に設立した、民間企業・生産者・大学・研究機関・非営利法人等を会員とする「知」の集積と活用「産学官連携協議会」において、一定の研究テーマに関する新たな研究開発に向けた戦略づくりを行う活動母体のこと。プラットフォームの戦略に基づいて、革新的な研究開発を行うのが「研究コンソーシアム」となる。

(令和3年4月30日現在)

No.	プラットフォーム名	研究領域	参画機関と構成員数
1	ICTでつなげる地域共生 アグリ・バリュースペース研究開発プラットフォーム	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	農業・園芸総合研究所 含め52組織と1個人
2	「Society5.0の実現に向けたデータ駆動型ソリューション」研究開発プラットフォーム		農業・園芸総合研究所 含め66組織と1個人
3	「東北農業のイノベーション技術創造」研究開発プラットフォーム		農業・園芸総合研究所、古川農業試験場、畜産試験場 含め53組織と2個人
4	SDGsに貢献する新たな植物保護技術研究開発プラットフォーム		農業・園芸総合研究所含め92組織
5	花き遺伝育種・生産流通 利用研究開発プラットフォーム	世界の種苗産業における日本イニシアチブの実現	農業・園芸総合研究所含め48組織